

**【特別寄稿】 多職種連携医療専門職養成プログラム(CoMSEP)担当にあたり****関本 道治（筑波大学医学医療系 助教）**

平成 26 年 12 月 1 日付けにより医学医療系助教職を拝命いたしました関本道治です。宜しくお願い致します。前任は、東京大学医学部附属病院で診療放射線技師として業務していました。

筑波大学では、平成 26 年度 文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」採択事業の多職種連携医療専門職養成プログラム（Coordinated, Continuing, Medical Staff Education Program; CoMSEP）を担当します。CoMSEP は、筑波大学医療科学類（臨床検査技師）と茨城県立医療大学（診療放射線技師，理学療法士）の養成課程との共同で高度医療人材養成を行います。これは、学部教育と卒後教育とそれぞれのプログラムを作成し、より多くの高度医療人材メディカルスタッフを育てる目的です。私が与えられた役割は、茨城県立医療大学が養成する診療放射線技師と理学療法士をメインに学部教育と卒後教育プログラムを作成、および履修証明プログラムの作成です。特に、学部教育プログラムは、臨床実習前の客観的臨床能力評価（OSCE, OSLE）を実施することにより学生から医療へ対する意識をさせて医療専門職の育成を目指して行きます。

私が思う教育とは、質の高い医療を提供出来る専門知識と豊かな人間性を備え、将来高度医療のリーダー的存在になれる学生を指導すること考えます。診療放射線技師の立場としては、高度な技術を要求され、メディカルスタッフの連携もより

深みをましている昨今では重要な役割を担う存在と言えます。私が診療放射線技師として勤務して感じたことは、診療放射線技師として専門職における知識は高められるが、独自で多職種の知識取得するしかないことへの不満でした。診療放射線技師の立場では、理学療法士が学ぶ身体に障害がある患者さんに対する適切な動作に関する知識やリハビリテーションに関する知識が必要となります。また、臨床検査技師が学ぶ尿や血液から得られる生体化学分析、脳や呼吸等の生理機能評価に関する知識が必要となります。業務多忙化が進む昨今、特に専門職化が進んでおり、専門職以外を学ぶことは時間的に困難であると言えます。これらは、診療放射線技師として適切な診療画像を取得するうえで重要なことで、臨床現場を出た直後から必要になります。その為、学生から多職種の知識を得る事は重要な事と考えます。

卒後教育の充実化も重要です。現在の卒後教育は、学会主催で開かれることが大半です。私の経験から、学会主導の卒後教育には満足していますが、細かい内容や基礎的な内容を聞く場所としては補えていないと思います。本プログラムが提案する履修証明プログラムは、学部課程から卒後まで継続的に交流が行えるシステムであるため、学会主導の卒後教育より気軽に知識の充電が行えます。また、大学-実習病院の連携強化により学会活動の活発化も期待できると推測されます。

多職種連携医療専門職養成プログラムは、連携

が少なかったメディカルスタッフがこのプログラムを通じてより交流を深めることでチーム医療の向上につながるよう運営をして行く次第であります。そして、日本全国により多くの高度医療人材養成プログラム出身者を出す事を目指して行きたいと考えています。まだまだ若輩者ですが、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。